

## 〈夜の会〉〈世紀の会〉〈総合文化協会〉活動年表

鳥羽耕史

戦後の文学・芸術運動の中でも、〈夜の会〉は早くから一種の伝説になっていた。名オルガナイザーとしての花田清輝が主催した戦後最初の会合であること、真善美社の跡を継ぐような形で戦後文学運動の拠点となった月曜書房から『新しい藝術の探求』という単行本を出したこと、また埴谷雄高や中村眞一郎といった当事者によって何度も回想が書かれたことがその伝説化に資したと思われる。

一方、〈世紀の会〉は〈夜の会〉の若手分派のようなものとして言及されることはあっても、その詳細は永く不明であり、ようやく近年の瀬田慎一、池田龍雄らの回想・記録によってその活動が明らかにされてきた。また、ガリ版刷りの『世紀ニュース』などの刊行物も、文学館などで閲覧が可能な状況になってきた。

また、〈総合文化協会〉は、おそらく雑誌『総合文化』の名前によってのみ記憶されており、今日では二つの会の間で埋れるようにして忘れられてしまっている。事実上は真善美社の後援資金を得るための口実として期待されていた側面があり、花田が月曜書房に乗り換えると同時に自然消滅してしまった形だが、曲がりなりにも全十回（カウント違いがあり「第九回」が十回目）の活動記録が残っているのは貴重である。

本年表は、その〈総合文化協会〉と、〈夜の会〉〈世紀の会〉の活動記録を整理したものである。管見の限りの資料をつきあわせて年月日のわかるデータを並べ、矛盾する部分にはその旨の注記をしながらそのまま掲載した。会合などについて、一次資料としての『世紀ニュース』などに掲載されているのは主として「予定」であり、そのままの日程で開催されたかどうか不明な場合が少なくない。後年の当事者による証言の方が正しいかもしれない。一方、〈夜の会〉についての埴谷雄高の証言は、特に発足時期などについて、他の証言と食い違う疑問点が少なくない。一部の記事は岡本太郎らの抗議によって本人が訂正したこともあり、歳月を経た上での記憶にたよった不正確さがありそうである。しかし、これも当事者の記憶にとどめられた〈夜の会〉の雰囲気の証言として、あえて年表に採録することにした。

ともあれ、当時の関係者の回想・記録と一次資料とを年代順に再構成することで、これらの芸術運動がどんな時期にどんな場で行われていたか、追体験の糸口としてみたい。場に注目すれば、〈総合文化協会〉は土曜の午後の出版社の応接室、月曜書房後援の〈夜の会〉は文字通り月曜夜の喫茶店モナミ、そして〈世紀の会〉は主として土曜の午後の大学教室で開かれていたことがわかる。こうした場の空気はそこで行われた議論にも影響を与えていただろう。花田清輝のマニフェストによって「百鬼夜行となるかもしれない!」（『芸』）とされた〈夜の会〉をはじめとするこれらの会合が、実際にはどのように行われていたのか、今後の検証の手がかりとなれば幸いである。

#### 凡例・参考文献（書名の後の数字はページ数）

（発）…会合の日ではなく雑誌等の発行日である意の注記。

『綜』…『総合文化』（真善美社 1947年7月～1949年1月）。

『世1』…『世紀ニュース No. 1』（1949年3月25日）。

『世外』…『世紀ニュース 号外』（1949年4月9日）。

『世3』…『世紀ニュース No. 3』（1949年5月1日）。

『芸』…夜の会編『新しい藝術の探求』（月曜書房 1949年5月5日）。

『世4』…『世紀ニュース No. 4』（1949年6月1日）。

『世5』…『世紀ニュース No. 5』（1949年7月10日）。

『あ』…『あるてみす』（1949年11月25日）。

『B』…『BEK 1 藝術の運命 特輯號』（1950年6月1日）。

『世2.1』…『世紀 news 1』（1950年8月）。

『世2.2』…『世紀ニユウス 2』（1950年10月22日）。

『世2.3』…『世紀ニユウス No. 3』（1950年12月27日）。

『針』…関根弘『針の穴とラクダの夢 半自伝』（草思社 1978年10月9日）。

『花』…久保寛「年譜」（花田清輝『花田清輝全集別巻 II』講談社 1980年3月28日）。

『桂』…桂川寛「花田清輝と〈世紀〉の会」（『新日本文学』1984年12月）。

『私』…桂川寛「私の〈戦後美術〉」（『社会評論』1989年3月）。

『夢』…池田龍雄『夢・幻・記』（現代企画室 1990年5月21日）。

『日』…瀬木慎一監修・総合美術研究所編『日本アンデパンダン展全記録』（総美社 1993年6月15日）。

『美』…油井一人編『戦後美術年表』（美術年鑑社 1995年12月10日）。

『空』…瀬木慎一『戦後空白期の美術』（思潮社 1996年1月25日）。

『全1』…安部公房『安部公房全集1』（新潮社 1997年7月10日）。

- 『全2』…安部公房『安部公房全集2』（新潮社 1997年9月10日）。
- 『草』…五十殿利治「戦後アヴァンギャルドの出發」（『「草月とその時代 1945-1970」展カタログ』（草月とその時代展実行委員会 1998年10月17日））。
- 『ア』…瀬木慎一『アヴァンギャルド芸術』（思潮社 1998年11月20日）。
- 『頃』…埴谷雄高「「夜の会」の頃」（埴谷雄高『埴谷雄高全集 第九巻』（講談社 1999年7月20日））。
- 『こと』…埴谷雄高「「夜の会」のこと」（埴谷雄高『埴谷雄高全集 第九巻』（講談社 1999年7月20日））。
- 『補』…埴谷雄高「「夜の会」のこと補足」（埴谷雄高『埴谷雄高全集 第九巻』（講談社 1999年7月20日））。
- 『岡』…埴谷雄高「「夜の会」の頃の岡本太郎」（埴谷雄高『埴谷雄高全集 第十巻』（講談社 1999年9月20日））。
- 『前』…瀬木慎一『日本の前衛 1945-1999』（生活の友社 2000年1月15日）。
- 『埴』…白川正芳編「年譜」（埴谷雄高全集編集部編『埴谷雄高全集別巻』（講談社 2001年5月31日））。
- 『評』…谷真介編著『安部公房評伝年譜』（新泉社 2002年7月15日）。

## 1947年

- 春 〈世紀の会〉発足、第1期・20代文学者の会時代（～48年初）。メンバーは安部公房、いいだ・もも、森本哲郎、小川徹、日高晋、中野泰雄、椿実、遠藤麟太郎、中田耕治、中村稔、辰野高、清岡卓行、針生一郎、渡辺恒雄、桎木恭介、瀬木慎一、三島由紀夫、芥川比呂志（『空』91）。
- 初夏 花田清輝、『錯乱の論理』に共感していた岡本太郎の存在を知り、東京世田ヶ谷・上野毛の岡本宅を訪ね、アヴァンギャルド芸術運動をはじめることに意見が一致する（「初夏」は『岡』による。『花』、『補』では年のみ）。
- 5月 焼け残ったビルディングの薄暗い陰惨な地下室で〈夜の会〉の最初の会合。岡本太郎と花田清輝が提唱者として薄闇の中央に坐り、まわりに中野秀人、野間宏、佐々木基一、椎名麟三、梅崎春生、安部公房、関根弘、埴谷雄高、渡辺一夫。渡辺はこの一回限り（『頃』）。次が狛江の花田清輝宅、その次が上野毛の岡本太郎家。そこに「夜」という題の絵があり、〈夜の会〉という名が付いた。その後も埴谷家で会合と会食が続き、やがて「モ

ナミ」での連続研究会となる（『岡』）。東中野の「モナミ」が〈夜の会〉の常設的な会場になって一種公開の「芸術運動」がおこなわれる前は、それぞれの個人の家、遠い狛江村和泉の花田清輝宅やまだ青山に移る前の岡本太郎宅や吉祥寺の埴谷雄高の家などに集った（『こと』）。『近代文学』同人の『世代の告白』、42年に結成されていた「マチネ・ポエティック」グループの加藤周一、中村眞一郎、福永武彦の『一九四六・文学的考察』を真善美社から刊行したのを機縁に、花田は野間宏、佐々木基一、加藤周一らと戦後芸術運動を計画（『花』）。

- 6月 〈総合文化協会〉を設立。同協会の宣言は野間宏が起草した（『花』）。
- 6月14日（土） 〈総合文化協会〉第1回研究会（原則として第2、第4土曜日の午後1時から、総合文化協会応接室にて）、「総合文化論」中村眞一郎報告、白井健三郎、窪田啓作、中野秀人、竹田敏行、花田清輝、河野葉子、望月節子、平野敏子、岡本潤、中野泰雄、関根弘、中野達彦、宮崎友一郎、吉岡政明、山北守男出席（『綜』47年8月、『花』によれば6月10日）。
- 6月28日（土） 〈総合文化協会〉第2回研究会、「労働文化論」関根弘報告、中村眞一郎、窪田啓作、宮崎友一郎、河野葉子、望月節子、吉岡政明、飯島節子、山北守男、岡本潤、花田清輝、中野泰雄、加納元、中野秀人出席（『綜』47年8月）。
- 7月12日（土） 〈総合文化協会〉第3回研究会、『一九四六・文学的考察』合評会、木原實、岡本謙次郎、竹田敏行、原田義人、藤本善雄、池田一郎、山本進、加藤周一、中村眞一郎、関根弘、中野泰雄、岡本潤、河野葉子、中野秀人、望月節子、飯島節子、平野敏子、中野達彦、吉岡政明、山北守男、窪田啓作出席（『綜』47年8月）。
- 7月26日（土） 〈総合文化協会〉第4回研究会（午後1時より総合文化協会応接室にて）、「詩について」野間宏報告、窪田啓作、中村眞一郎、原田義人、川崎覺太郎、宮崎讓、中野泰雄、望月節子、平野敏子、飯島節子、河野葉子、中田耕治、関根弘、中野秀人、岡本潤、加納元、他数名出席（『綜』47年8月（予定）、47年9月）。
- 9月27日（土） 〈総合文化協会〉第5回研究会（午後1時より総合文化協会応接室にて）、「八犬伝について」花田清輝報告予定のところ、「総合文化協会の在り方について」検討したいと花田が問題提出、

討議した。花田はこの会を加藤周一や中村眞一郎らヤンガー・ジェネレーション中心のものとしながら、中野泰雄や加藤周一を批判（『綜』47年11月）。

秋以降 安部の友人で医師・画家である赤塚徹の医院（神田）で〈世紀の会〉の最初の準備会。この時はまだ名称はなく、正式な発足は翌年春頃。関根弘によれば48年5月の〈夜の会〉の発足直後（『桂』）。

10月11日（土）〈総合文化協会〉第6回研究会（午後1時より総合文化協会応接室にて）、「リアリズムについて」中野秀人報告、討論（『綜』47年11月）。

10月25日（土）〈総合文化協会〉第7回研究会（午後1時より総合文化協会応接室にて）、「絵画上のリアリズム」永井潔報告、郵便の都合で案内状が届かず少ない出席者と討論。6時散会（『綜』47年11月（日時未定の予定）、47年12月）。

11月15日（土）〈総合文化協会〉第7回（正しくは第8回）研究会（午後2時より総合文化協会応接室にて）、上野省策「近代絵画の問題」、窪田啓作、中野秀人、平野敏子、河野葉子、中野泰雄、矢内原伊作、望月節子、齋藤綾子、鹽出和子、関根弘、加納元、他数名出席。次回は佐々木斐夫が報告する予定（『綜』47年12月（「現代絵画論」として日時未定の予定）、48年1月）。

12月8日（月）（発）『総合文化』47年12月、〈総合文化協会〉正会員現状。加藤周一、中村眞一郎、野間宏、窪田啓作、福永武彦、白井健三郎、佐々木基一、小野十三郎、永井潔、中野秀人、中田耕治、原田義人、花田清輝、矢内原伊作、竹田敏行、関根弘、兼井連、水野明善、岡本潤、高橋錦吉、中野泰雄、福田恆存、梅田晴夫、大西巨人、長谷川鑛平、中野達彦、岡本謙次郎、長光太、内田義彦、下村正夫、青山敏夫、瓜生忠夫。

## 1948年

1月 〈夜の会〉発足。安部公房と関根弘知り合って共鳴（『空』91）。

1月19日（月）野間宏、椎名麟三、埴谷雄高、梅崎春生、小野十三郎、中野秀人らと花田清輝の7人で〈夜の会〉を結成（のちに佐々木基一、関根弘、安部公房が参加）。同会の事務は、真善美社編集部の河野葉子が担当した（『花』）。

1月25日（日）〈総合文化協会〉第8回研究会（午後2時より総合文化協会応

接室にて)、「小林秀雄について」討論。会員矢内原伊作「小林秀雄論」(『綜』48年1月)と世代同人宮本治「小林秀雄論」(『世代』48年1月)を機会として、世代同人よりの提案で「小林秀雄論」の共同研究。出席者〔世代側〕<sup>(ママ)</sup>宮本治、矢内原宏、倉田正也、有田潤、中村稔、吉行淳之助、熊谷達雄、細川洋子、岡富久子、殿村郁子〔協会側〕矢内原伊作、原田義人、窪田啓作、中野泰雄、関根弘、〔オブザーバー〕平野敏子、望月節子、飯島節子、鹽出和子、山田イル、他数名(『綜』48年2月)。

1月26日(月) (発)花田清輝「革命的芸術の道」(『読売新聞』)、「夜の会」のマニフェスト的文章(『花』)。

2月8日(日) (発)佐々木基一・花田清輝・野間宏・福田恆存・加藤周一・関根(弘(編集部))「座談会 <sup>アプレ・サール</sup> 戦後文学の方法を求めて」(『綜』48年2月)。

2月14日(土) 〈総合文化協会〉第9回研究会(午後2時より総合文化協会応接室にて)、竹内好「魯迅について」報告、討論(『綜』48年3月)。

2月16日(月) 第1回〈夜の会〉公開研究会(月に2回、於東中野モナミ)「神について」中野秀人報告、埴谷雄高ら討論。討論者達がみな真面目でなく、自分の意見に嘲弄的であったとして、中野秀人はすぐ会をやめた(『読売新聞』2月10日(予定)、『美』、『こと』)。

日時不明 第2回〈夜の会〉公開研究会(於東中野モナミ)「悪魔について」埴谷雄高報告、花田清輝、永田宣夫(月曜書房代表)、五味康祐(奈良の出版社の東京代表)ら出席(『こと』)。

3月8日(月) (発)岡本太郎・花田清輝・加藤周一・野間宏・佐々木基一・編集部「座談会 悲劇について」(『綜』48年3月)。

春 〈世紀の会〉、第2期・文学者中心時代(～49年初)。メンバーは安部公房、関根弘、森本哲郎、小川徹、中野泰雄、椿実、中田耕治、針生一郎、渡辺恒雄、榎木恭介、辰野高、瀬木慎一、今井直次ら(『空』94)。48年中の法政大学における月二回の研究会で安部公房「二十代の方法について」、宮本治(いいだ・もも)「民衆について」、中野泰雄「インテリゲンチヤ論」、関根弘「技術と芸術」、渡辺恒雄「哲学の運命について」、椿実「シュールレアリスム」の報告(『世1』、『空』)。

- 4月8日(木) (発) 中野秀人・岡本太郎・永井潔・野間宏・佐々木基一・上野省策・花田清輝・編集部「座談会 アヴァンギャルドの精神」(『綜』48年4月)。
- 5月3日(月) 安部公房・上野光平・小林明・関根弘・中田耕治・中野泰雄・宮本治「二十代座談会 世紀の課題について」(『綜』48年8月、『評』。後者によれば〈世紀の会〉の参加メンバーは他に小川徹、森本哲郎、渡辺恒雄、桎木恭介ら)。安部公房、「夜ノ会で真理について話す」「〈世紀〉決定後、関根、中野(泰)、宮本、中田諸氏と話した」とノートに記す(『全1』)。
- 5月8日(土) (発) 平野謙・花田清輝・椎名麟三・野間宏・佐々木基一・編集部「座談会 小説の面白さ」(『綜』48年5月)。
- 5月17日(月) 〈夜の会〉「神学について」(於東中野モナミ)(『読売新聞』5月17日(予定)、『美』)。
- 6月7日(月) 〈夜の会〉「リアリズム序説」花田清輝報告、岡本太郎・野間宏・片山修三・佐々木基一討論(『芸』、『評』)。
- 6月8日(火) (発) 南博・矢内原伊作・野間宏・佐々木基一・花田清輝・編集部「座談会 文学における無意識の役割」(『綜』48年6月)。
- 6月21日(月) 〈夜の会〉「社会主義リアリズムについて」関根弘報告、花田清輝・岡本太郎・野間宏・佐々木基一・安部公房討論(『芸』、『評』)。
- 7月5日(月) 〈夜の会〉「フィクションについて」佐々木基一報告、花田清輝・岡本太郎・関根弘・安部公房討論(『芸』、『評』)。
- 7月8日(木) (発) 岩上順一・荒正人・中村眞一郎・野間宏・加藤周一・花田清輝・佐々木基一・編集部「座談会 リアリズムをめぐる」(『綜』48年7月)。
- 7月19日(月) 〈夜の会〉「実験小説論」野間宏報告、花田清輝・佐々木基一・関根弘討論(『芸』)。
- 8月8日(日) (発) 関根弘「ファデーエフ」(『綜』48年8月)。
- 8月16日(月) 〈夜の会〉「人間の条件について」椎名麟三報告、花田清輝・岡本太郎・安部公房・野間宏討論(『芸』、『評』)。
- 9月 〈アヴァンギャルド芸術研究会〉発足(『前』186)。
- 9月6日(月) 〈夜の会〉「反時代的精神」埴谷雄高報告、岡本太郎・花田清輝・椎名麟三・関根弘・安部公房討論(『芸』、『評』)。
- 9月8日(水) (発) 内田巖・岡本太郎「対談 前衛絵画をめぐる」(『綜』48年9月)。

- 9月20日(月) 〈夜の会〉「創造のモメント」安部公房報告、岡本太郎・花田清輝討論(『芸』には(一九八、九、二〇)とある、『評』)。
- 10月8日(金) (発) 田中英光・野間宏「対談 文学と政治」(『綜』48年10月)。
- 11月8日(月) (発) 埴谷雄高・椎名麟三「対談 「死霊」「序章」をめぐって」(『綜』48年11月)。
- 11月20日(土) 〈世紀の会〉発表記念会(午後1時より、於東大法文経31番教室)約300名参加、関根弘「二十代の逆流」、岡本太郎「ピカソについて」、荒正人「何を為すべきか」、花田清輝「罪と罰」の講演終了後座談会(『世1』、『空』94では「発表懇談会」)。
- 12月4日(土) 埴谷雄高「『死霊』出版記念会」(於東中野モナミ)山室静、伊藤整、原民喜、片山修三、岡本太郎、関根弘、椎名麟三、花田清輝、本多秋五、荒正人、佐々木基一、久保田正文、野間宏らが出席(『埴』)。
- 12月8日(水) (発)「世紀について」、「世紀は二十代のための二十代による二十代の文化である。」にはじまるマニフェスト。「世紀は巾の広い共同研究が持ちたいもので世代を限定した以上に会員規定と云つたようなものはない。会に参加希望者の方は左記に御連絡下さい。 東京区文京区本郷三ノ二眞善美社内 世紀」(『綜』48年12月)。
- 12月8日(水) (発) 伊藤整・平野謙「対談 私小説の問題ー日本近代文学の解剖ー」(『綜』48年12月)

## 1949年

- 1月8日(土) (発) 綜合文化2号(未刊)予告「「座談会 芸術運動の危機を如何に打開すべきか」新日本文学…壺井・佐藤・キクチ、近代文学…荒正人、夜の会…岡 幸 太郎、方舟…原田義人、同時代…矢内原伊作、荒地…田村・鮎川、綜合文化…野田・佐々木・花田」(『綜』49年1月)。
- 2月 〈夜の会〉活動停止(『前』186)。
- 2～4月頃 岡本太郎による講習会(於多摩造形芸術専門学校)に、池田龍雄、藤川曜子、田原太郎、村松七郎ら参加(『空』)。
- 2月11日～3月3日 第1回読売アンデパンダン、北代省三、井上千鶴子、柳田美代子、薬師寺浜子が参加(『空』97、『日』)。
- 2月20日(日) 「詩と音楽の問題」交流懇談会(午後1時、眞善美社会議室)



作曲者＝吉田秀和、柴田南雄、別宮貞雄、入野義雄、小倉朗、  
詩人＝田村隆一、三好豊一郎、北村太郎、井出則雄、関根弘、  
安部公房（『世 1』、『評』）。

2月21日(月) 〈夜の会〉「対極主義」岡本太郎報告、花田清輝・埴谷雄高・  
佐々木基一討論（『芸』）。（発）安部公房「芸術を大衆の手へ」  
（『読売新聞』、『全 2』、『記』）読売アンデパンダン展評。

3月 安部公房、目黒区柿ノ木坂にあった書肆ユリイカのオフィスへ  
社主伊達得夫を訪ね、〈世紀の会〉の機関誌発行を依頼する  
（『評』）。

3月13日(日) 〈世紀の会〉第7回研究会（午後1時～4時、東大文学部31番  
教室）、関根弘「兵隊文芸の展望」安部公房発言。出席した新会  
員は鍋井傳、石崎津義男、岸田松次郎、大島慶次郎、金子美佐  
子、林良樹、岩田秀雄、安田美智子、□田□子（判読できず）、  
山本祐（『世 1』、『評』）。

3月15日(火) 安部公房、「世紀の歌」を『詩ノート』に記す（『全 2』）。

3月25日(金) （発）『世紀ニュース No. 1』、〈アヴァンギャルド芸術研究会〉  
との4月合流を発表。花田清輝・埴谷雄高・佐々木基一・岡本  
太郎・椎名麟三・野間宏の6名を特別会員とし、4名の欠員と  
発表。地方会員と地方支部設置の呼びかけ。パンフレット『行  
方不明』の刊行予告。月曜書房内に事務所（本部）を移転した  
との通告。

4月 〈世紀の会〉、第3期・文学・美術提携時代（～50年4月）  
（『空』）。

4月5日(火) 近代文学サロンの合評会、花田清輝『二つの世界』（佐々木基一  
批判報告）、椎名麟三『自由を求めて』（野間宏批判報告）。埴谷  
雄高、本多秋五、安部公房、佐々木基一ら発言、その他近代文  
学同人間に種々活発なる討論（『世 3』）。

4月6日(水) 池田龍雄と田原太郎、桂川寛の下宿で議論（『夢』97）。

4月9日(土) 〈夜の会〉と〈世紀の会〉の共催による20世紀美術講座の第1  
回目を本郷・喜福寺で開催。講師は椎名麟三「新しい描写につ  
いて」（『読売新聞』4月9、20日、『美』、『世 3』では20世紀文  
学講座第1回「新描写論」とされている）。『世 1』では〈アヴ  
ァンギャルド芸術研究会〉として埴谷雄高のレクチュア、詩の  
作品批評が予定されていた。帰りに池田龍雄は田原太郎宅で河  
越安澄らと議論（『夢』98）。（発）『世紀ニュース 号外』

(『草』)。

4月12日(火) 池田龍雄、岡本太郎宅を訪れる(『夢』100)。

4月17日(日) 〈アヴァンギャルド芸術研究会〉と合流した〈世紀の会〉臨時総会(午後1時より、於東大山上会議所)。会員14名参集。議事に先立ち関根弘挨拶、議長に北代省三推薦、高田準備委員より経過報告。安部会長から特別会員推薦で6名が満場一致で推薦されたが、関根副会長より推薦の某氏については疑義続出、関根氏は提案撤回。午後4時散会。臨時総会、会則、役員その他を決定。必ずしも二十代に限らず。会長に選出された安部公房の就任挨拶(『世3』、『空』95、『前』186。『評』によると目的を明確に「総合的芸術運動」に切り換えた)。安部公房会長、関根弘副会長、花田清輝、岡本太郎、埴谷雄高、佐々木基一、野間宏、椎名麟三らを特別会員とし、あとは二十代(『夢』102)。

4月20日(水) 安部公房より大島栄三郎への書簡。『行方不明』と『夜』は印刷直前で一時中止、『夜』は題名を変えて単行本形式で出し、『行方不明』は拡充し『仲間』という月刊誌にして10月までに実現する旨報告。(青木正美「文士の手紙 46 安部公房」(『彷彿月刊』1996.02)、『全2』)

4月23日(土) 〈世紀の会〉20世紀美術講座第2回〈『世3』では第1回〉、岡本太郎「アヴァンギャルドの技術」(午後二時より東大正門前喜福寺)、以下月一回の予定。(『読売新聞』4月9、20日、『美』、『夢』101、『草』)、『世1』『世外』では岡本の名はなく「絵画の作品批評と会員の研究発表」「作品批評、ならびに課題・トーンの変化とマチエールの変化についての討論」として予定されていた。

4月26日(火) 〈世紀の会〉第1回理事会、理事3名の補充を決定。新役員：会長安部公房、副会長関根弘、記録書記高田雄二、通信書記平野敏子、会計河野陽子、会計監査役永田宣夫、管理人樗沢慎一、理事北代省三、同村松七郎、同藤池雅子、同新貝博(『世3』、『評』)。

4月28日(木) 岡本太郎・関根弘は日本鋼管川崎製鉄所を見学、同所労働組合の絵画研究会に出席(『世3』)。

4月30日(月) 〈世紀の会〉絵画部、総会のための準備委員会、「赤門」(喫茶店)にて(『夢』101)。

- 5月                   このころ、〈夜の会〉は解散していたが、岡本太郎、花田清輝らが〈アヴァンギャルド芸術研究会〉を発足させ、本郷喜福寺、法政大学の教室などを借りて、たびたび公開の研究会を開く。〈世紀の会〉も提携し、安部公房は花田清輝の影響を受けつつ、さらに新しい創作活動をめざす（『評』）。
- 5月1日（日）       〈世紀の会〉絵画部発足。北代省三、山口勝弘、福島秀子、池田龍雄ら参加（『世 3』、『ア』34、『評』）。絵画部臨時総会で研究会設置、展覧会開催、夏期講習開催の三事業決定（『世 4』、『草』）。（発）『世紀ニュース No. 3』、企画・会場・会員三委員会の委員は目下会長の手元で詮衡中であるが、会場委員には渡辺恒雄、高田雄二氏が内定。『行方不明』の資金難について報告、安部公房編集の季刊雑誌『夜』（月曜書房）6月上旬刊行予定。埴谷雄高・花田清輝・佐々木基一三氏のエッセイならびに評論、芸術運動についての座談会、椎名麟三氏の小説、安部公房氏の小説と関根弘氏の詩その他、野間宏・福田恆存、岡本太郎一土方定一の往復書簡、小野十三郎氏のエッセイ、田中英光氏の小説、ハイネ訳等。表紙は岡本太郎氏の最近作「美女と野獣」の原色版。定価 160 円。
- 5月5日（木）       （発）夜の会編『新しい藝術の探求』（月曜書房）。
- 5月7日（土）       〈世紀の会〉絵画部委員会、五時より「赤門」、北代省三、村松七郎、山口勝弘、田原太郎、池田龍雄ら議論（『夢』102）。
- 5月8日（日）       池田龍雄、〈世紀の会〉のポスターを萬崎で描く。絵画部会のメンバー来る（『夢』103）。
- 5月14日（土）      〈世紀の会〉主催、20世紀文芸講座第2回、安部公房「カフカとサルトル」於東大文学部四番教室（『世 4』、『評』、『全 2』）。日時不明ながら『世 5』に紹介。池田龍雄、北代省三らと第三回連合展見る（『夢』103）。
- 5月15日（日）      〈世紀の会〉詩の研究会、大島栄三郎「雨季」「兵隊」「地球の経緯」発表及び合評予定（安部公房「大島栄三郎宛書簡」（『全 2』）。「十五日」とあるだけなので6月のことか？）。池田龍雄、田原太郎宅で議論（『夢』103）。
- 5月21日（土）      昼〈世紀の会〉の集会。作品合評（『夢』103）。花田清輝「絵画と文学」（『世 3』（予定））。
- 5月23日（月）      池田龍雄、学校と岡本太郎宅（『夢』104）。
- 5月28日（土）      20世紀文芸講座第3回、佐々木基一「アブストラクトとリアリ

ズム」。花田清輝、佐々木基一、埴谷雄高、椎名麟三、安部公房、関根弘ら毎回参加。会員、一般聴講者の討論参加も極めて活発（『世 5』）。

5月30日(月) 池田龍雄、田原太郎と村松七郎に会う（『夢』104）。

5月31日(火) 池田龍雄、山口勝弘宅で議論（『夢』104）。

6月 同月号創刊で〈夜の会〉の機関誌『夜』（予告誌名は『想像』）が、安部公房責任編集で月曜書房から刊行される予定であったが、未刊に終る（『世 3』、『評』）。

6月1日(水) （発）『世紀ニュース No. 4』、「絵画研究部の発足について」で研究会の行き詰まり指摘（『草』）。

6月3日(金) 〈世紀の会〉・〈夜の会〉対月曜書房の野球試合（午後五時、飯田橋球場）、9対2で月曜書房勝利。〈世紀の会〉・〈夜の会〉チームの出場者は佐々木（基一）、埴谷（雄高）、岡本（太郎）、関根（弘）、樗沢（慎一）の諸氏（『世 5』、『ア』33）。

6月4日(土) （第1土曜日）東大8番教室にて〈世紀の会〉定例会合。学校関係の試験期にあたり出席者少なし。9月から第三次の運動展開。研究会、アヴァンギャルド詩論研究会、新しい構想の講座をそれぞれ月1回ずつ行なう。理事会は地方会員の意見をまとめた結果、新たに小野十三郎氏を特別会員として推薦、全員一致を以て議決した。関西地区に於ける有力な地盤を確立するため、理事会は、島尾敏雄氏を理事に推薦これを決定した。『行方不明』は8月5日を原稿締切にして9月初旬に発行。詩・エッセイ・小品等を会員からつとり、研究会・定例会合・理事会の報告、特別会員の寄稿（例えば椎名麟三氏は第一号に時評論を、つづいて戦闘的な時評を毎号よせられる由）、絵画部員のデッサン等をB5判16頁に充実、しかも鋭く編集する（『世 5』、『評』）。

6月11日(土) 〈世紀の会〉20世紀文芸講座4 埴谷雄高「構成について」（於東京大学文学部八番教室）。安部公房出席（『世 5』、『評』）。

6月14日(火) 『近代文学』対小山書店の野球試合（飯田橋球場）、7対5で『近代文学』勝利。〈世紀の会〉関係の出場者は、佐々木、埴谷、岡本、関根の諸氏。三塁打関根氏（『世 5』、『ア』33）。

6月15日(水) 〈世紀の会〉第2回詩の研究会（水曜日五時より法政大学新館会議室、出席者15名）。出席者と地方会員の作品原稿を回覧し、その後全作品を作者、地方会員は代理の人が朗読、次に一作毎

に再び朗読して批評に移った。秋田支部の大島栄三郎氏らが中心となって刊行したパンフレット、季刊『雨季』も合評（『世 5』）。

6月18日(土) 〈世紀の会〉絵画部会（午後2時より東大8番教室に約30名参加）、岡本太郎ら議論（『世 5』）。

6月18日(土) 近代文学講座、関根弘「勤労文学の行方」講演（『世 5』）。

6月18～20日 〈世紀の会〉会員の南美江と北條（城）まき、文学座現代劇研究会（於毎日ホール）でサルトル「出口なき部屋」、アヌイ「アンチゴヌ」に出演（『世 5』）。

6月25日(土) 〈世紀の会〉20世紀文芸講座5 中橋一夫「観念小説と記録文学」（於東京大学文学部8番教室）。安部公房出席（『世 5』、『評』）。

7月2日(土) 〈世紀の会〉絵画部の第1回研究会（2時より法政大学会議室）。北代省三氏がオストワルドの色彩学について報告。以後当分毎週火曜3時半より法政大学に於いて継続の予定（『世 5』、『空』96によると3日、乾孝法政大学教授の心理学との関連あるもので、交流がしばらく続いた）。

7月5日(火) 〈世紀の会〉、3時より法政大学で、北代省三の色彩学（『夢』107）。

7月6日(水) 〈世紀の会〉定例会合（於東京大学文学部8番教室）、安部公房出席（『評』）。

7月9日(土) 〈世紀の会〉定例会合（土曜日、於東大8番教室）（『世 5』（予定））。

7月10日(日) （発）『世紀ニュース No. 5』。

7月10～16日 モダンアート講習会、第一期は上野毛・多摩造形芸術専門学校で。講師＝岡本太郎、村井正誠、滝口修造、花田清輝、阿部展也ら。聴講料500円（『読売新聞』7月11、12、21日、『毎日新聞』7月17日、『美』）。『夢』107では「モダンアート講習会」として11～15日の開催となっており、岡本太郎、佐波甫、四宮潤一、山脇巖、恩地孝四郎、江川和彦、花田清輝らが講師とされている。『世 5』（予定）では「第一期 夏季アヴァンギャルド美術講習会」として11～16日の開催予定、7時～12時 実技指導＝岡本太郎、村井正誠、小松義雄。2時～4時 講座 花田清輝、山脇巖、滝口修造、植村鷹千代、安部公房、岡本太郎、四宮潤一、佐波甫、その他、という構成。

- 7月18～23日 モダンアート講習会、第二期はお茶の水・文化学院で。講師＝岡本太郎、村井正誠、滝口修造、花田清輝、阿部展也ら。聴講料 500 円。(『読売新聞』7月11、12、21日、『毎日新聞』7月17日、『美』、『世5』(予定)では「第二期 夏季アヴァンギャルド美術講習会」とされ、終了日記載なし)。
- 7月20日(水) 〈世紀の会〉第3回詩部会(水曜5時半、於法政大学新館会議室)(『世5』(予定))。
- 7月23日(土) 〈世紀の会〉文芸講座、鶴見俊輔「二人のジェームズ」(土曜日、於東大8番教室)(『世5』(予定))。
- 7月29日(金) 池田龍雄、田原太郎と、岡本太郎宅へモダンアート展用の絵を見せに行く(『夢』109)。
- 7月30日(土) (発)『近代文学同人ニュース』二つの野球試合報告(『針』184)。
- 8月1日(月) (発)『夜』広告(『近代文学』49年8月)。
- 8月1～6日 〈自由美術家協会〉、夏期洋画講座をお茶の水・文化学院で開催する。会費 300 円(『朝日新聞』8月1日、『美』)。
- 8月5日(金) 『行方不明』原稿締切、B5版16頁で9月初旬発行予定(『世5』)。「集った作品を検討の結果、時期尚早であるとの結論に達し一時発刊を取止め、会員の主体性の恢復を待つて再準備することになった。『行方不明』がでるまでのあいだは、『あるてみず』紙上を会員に解放、意思疎通を図ることになったので投稿を期待する。」(『あ』)。
- 8月13日(土) 〈世紀の会〉サルトル「唯物論と革命」をめぐる討論会(午後2時、於法政大学法学部研究室)。テキスト『世界文学』3～6月号、関根弘司会、花田清輝、佐々木基一、大井広介、田中英光ら参加(『世1』投げ込み、『世5』で予告、『あ』、『ア』25)。
- 8月18日(木) 法政大学50番教室で〈世紀の会〉主催の「サルトルの『唯物論と革命』」の公開討論会。会員以外に花田清輝、佐々木基一、大井広介、田中英光らも出席。(『評』)
- 8月21日(日) 山口勝弘、池田龍雄の会社で2時間ほど会話(『夢』110)。
- 9月17日(土) 岡本太郎と里見勝蔵公開討論会、読売ホール(『夢』111)。
- 9月19日(月) 池田龍雄、三越に「実験室」(30号、現存せず)を搬入(『夢』111)。
- 9月23～29日 第2回「モダン・アート展」(三越本店)に〈世紀の会〉の主要メンバー参加(岡本(太郎)、北代(省三)、北見(和夫)、村

- 松（七郎）、池田（龍雄）、柳田（美代子）、山口（勝弘）、福島（秀子）の諸氏が出品（『あ』、『毎日新聞』9月23日、『読売新聞』9月23、24、26日、『美』、『ア』34）。
- 10月 桂川寛、〈世紀の会〉に加入（『空』96）。『BEK』編集をし、研究会で「ゴッホとゴーガン」の発表（年月日不明、『私』）。
- 10月13日（木）夜、池田龍雄、内田重遠（共産党細胞の一人）、桂川寛（少し前から〈世紀の会〉の一員に）、田原太郎宅で議論（『夢』113）。
- 10月15日（土）池田龍雄、桂川寛、田原太郎、東京八重洲口のラサ工業で美術講習会。その後法政大学で〈世紀の会〉、関根弘「メカニズムに就いて」。夜は桂川寛の学生会館で、以後数回のラサ工業での話の打ち合せ（『あ』、『夢』113）。
- 10月19日（水）夜、池田龍雄、田原太郎、桂川寛、安部公房宅（文京区小日向台の板倉賛治家の洋間で真知夫人と二人世帯）で議論（『夢』113）。
- 10月29日（土）〈世紀の会〉研究会、3時より新日本文学会館にて、安部公房「イメージに就いて」（『夢』114、『評』）。
- 10月30日（日）池田龍雄、桂川寛、田原太郎宅で〈世紀の会〉絵画部集合の打ち合せ（『夢』114）。
- 11月3日（木）〈世紀の会〉メンバーの田中英光自殺（『夢』115）。
- 11月5日（土）〈世紀の会〉絵画部会（『夢』117）。
- 11月12日（土）〈世紀の会〉研究会、花田清輝「転形期の二重性」（土曜2時、於法政大学第1校舎18番教室）（『夢』117、『あ』（予定））。
- 11月19～23日 草月いけばな展（日本橋・三越本店）（『朝日新聞』11月19日広告、『毎日新聞』11月19日、『美』）。
- 11月25日（金）（発）〈世紀の会〉機関誌『あるてみす』（月曜書房）。
- 11月26日（土）樗澤慎一「ハイネ論」（土曜2時、於法政大学第1校舎18番教室）（『あ』（予定））。
- 12月2日（金）〈世紀の会〉研究会、田原太郎「モダンアートの反省」（『夢』117）。
- 12月10日（土）藤池雅子「女のエゴイズム」（土曜2時、於法政大学第1校舎18番教室）（『あ』（予定））。
- 12月24日（土）クリスマス懇談会（土曜2時、於法政大学第1校舎18番教室）（『あ』（予定））。
- 12月25日（日）池田龍雄、田原太郎、桂川寛、安部公房宅を訪れる。桂川寛、ダリのいい作品の載っている本を持参。安部公房、革命の「動

機と手段」について語る（『夢』117、『評』）。

## 1950年

- 1月2日(月) 〈世紀の会〉の常連、安部公房、桂川寛、村松七郎、福島秀子、石川勇、北見和夫、西村悟、藤川曜子ら、田原太郎宅で飲む（『夢』120）。
- 1月4日(水) 池田龍雄と田原太郎、恩地孝四郎宅に新年の挨拶。安部公房宅を訪れ、〈世紀の会〉のことなど話し9時頃帰る（『夢』120）。
- 1月6日(金) 池田龍雄萬崎仕事始め、5時、田原太郎、西村悟、桂川寛ら来て、地下室で飲み、絵画部のスケジュール組む（『夢』121）。
- 1月14日(土) 岡本太郎のアトリエで新年会、池田龍雄ら（『夢』121）。
- 1月16日(月) 池田龍雄、夜11時まで50号を描き、桂川寛宅（九段の学生会館）に泊る（『夢』122）。
- 1月21日(土) 〈世紀の会〉文学部研究会（『夢』122）。
- 1月28日(土) 〈世紀の会〉公開研究会、安部公房「芸術の論理性について」（『夢』122、『評』）。
- 2月11日(土) 〈世紀の会〉研究会、田原太郎「対極主義以後」の予定が風邪で流れ、機関紙編集の打ち合せ。池田龍雄「芸術の運命」10枚程度。他に村松（七郎）、桂川（寛）でアンデパンダン出品作の意図を、集まった分だけまとめて今村（確か早稲田の学生）に渡す（『夢』122 →おそらく『BEK』用のものだが、脱会したため掲載されず）。
- 2月18日～3月8日 第2回読売アンデパンダン展、桂川寛「開花期」50号、清水正策「おどけの生態」40号出品（『B』によると2月16日から）。他に山口勝弘、池田龍雄、石川勇、福島秀子、福田恒太、井上千鶴子、村松七郎、田原太郎、石館敏子出品。開会日、2時半より美術館食堂にて行われた岡本太郎の対極主義宣言に反発した画家たち退場。安部公房はじめ皆萬崎の地下で飲む。8時半頃まで。安部は岡本から東京芸術大学の学生だった勅使河原宏を紹介され、勅使河原は〈世紀の会〉に参加（『夢』123、『空』97、『美』、『記』、『評』）。
- 2月25日(土) 〈世紀の会〉研究会、村松七郎「ウェーヴァーとマルクス」（『夢』124）。
- 3月5日(日) 安部公房「壁 S・カルマ氏の犯罪」搁筆（『近代文学』51年2月）。



- 3月11日(土) 〈世紀の会〉研究会、花田清輝(テーマ不明)(『夢』124)。
- 3月25日(土) (発) 安部公房「序」(大島栄三郎詩集『いびつな球体のしめつばい一部分』(文学地帯社))(『評』、『全2』)。
- 4月 〈世紀の会〉、第四期・創造時代(～51年5月)(『空』)。
- 4月7～12日 草月流春季いけばな展(銀座・松坂屋)(『読売新聞夕刊』4月7日、『美』)。
- 4月8日(土) 〈世紀の会〉第43回研究会、安部公房「反ブルジョア論」報告(午後2時より、於法政大学50番教室。出席者約20名。)(『B』、『針』181、『夢』124、『評』)。
- 4月15日(土) 〈世紀の会〉第44回研究会、瀬木慎一「モダニズム批判」(午後2時より、於法政大学50番教室) 安部公房出席(『B』、『夢』124、『評』)。
- 4月29日(土) 〈世紀の会〉第45回研究会、桂川寛「造型の問題」(午後2時より、於法政大学50番教室) 安部公房出席(『B』、『ア』17、『評』)。画家たち一斉に脱会(『ア』35)。池田龍雄、北代省三、山口勝弘、村松七郎、田原太郎、福田恒太、山野卓造(山野卓)、瀬川昌二、西村悟、北見和夫ら。桂川寛、勅使河原宏他数名だけ残る(『夢』125)。桂川寛、勅使河原宏、大野斉治のみ(『空』98)。勅使河原宏、桂川寛、関根弘、瀬木慎一らが残る(『評』)。
- 5月13日(土)頃 グループ Pouvoir 結成。池田龍雄、北代省三、村松七郎、山口勝弘、田原太郎他17名。〈世紀の会〉脱会者中心で1年ほど活動(『夢』124)。
- 5月13日(土) 安部公房「バベルの塔の狸」搁筆(『人間』51年5月)。
- 6月1日(土) (発) 『BEK 1 藝術の運命 特輯號』。
- 6月24日(土) 〈世紀の会〉研究会・野間宏「新しい人間の条件」(『世2.1』)。
- 7月9日(日) 〈世紀の会〉研究会・平田次三郎「批評の方法」(『世2.1』)。
- 7月25日(火) 〈世紀の会〉研究会・伊藤整「私小説とリアリズム」(『世2.1』)。
- 8月12日(土) 芸術運動の推進のため、〈世紀の会〉と〈前衛美術会〉の相互の代表者による第1回の会合。9月2日の企画を決める。(土曜日、場所不明)(『世2.1』投げ込み)。
- 8月 (発) 『世紀 news 1』、投げ込みで『世紀群』発刊予告。月3部の予定で近日刊行のものは花田清輝訳『フランツ・カフカ小品集』、城崎誠作『小説『紙片』』、フフアーデーエフ『文芸評論の』

課題について』。その他の計画、安部公房訳『ストリンダベルグ  
童話集』、瀬木慎一訳『現代アメリカの抽象芸術』、安部公房  
『実存主義と共産主義』、関根 宏 訳『マヤコフスキイ詩集』、  
(交渉中)『小野十三郎詩論』、安部公房『短篇小説(題未定)』、  
桂川寛『絵画とはなにか』、『会員中の画家による画集』。「なほ  
会員はすべてこのパンフレットの企画について積極的に発言で  
き、また各種の作品を委員に提出できます。」事務所が目白・藤  
池方より東京都杉並区清水町一二四 勅使河原方に移転。理事  
会の決定で会則と事業変更のアナウンス。

8月19日(土) 〈世紀の会〉研究会・福田恆存「ドラマについて」(会場は通例  
法政大学 50 番哲学教室)(『世 2.1』投げ込み(予定)、『世  
2.2』)。

9月2日(土) 〈世紀の会〉と〈前衛美術会〉の共同研究会、『アヴァンギャル  
ドと社会主義リアリズム』(会場は通例法政大学 50 番哲学教室  
ですが9月2日のみ変更するかもしれません)(『世 2.1』投げ込  
み(予定))。

9月中旬 (発)「世紀群」刊行開始(～12月、『空』)。杉並の勅使河原宅  
(のち安部公房宅)を拠点に、200～300部製作、10円で頒布  
(『評』)。瀬木・桂川が責任者となり安部・勅使河原・鈴木秀太  
郎・藤池雅子らと共同制作、大野斉治もフリーで、関根は企画  
のみ参加。なお画集の安部、鈴木の前半は又はすべては桂川  
が鉄筆で描き起している(『私』)。

9月12日(火) (発)訳者(瀬木慎一)「翻譯ノート」(『世紀群3アメリカの抽  
象芸術—新しいリアリズム—』)。

9月29日(金) (発)『世紀群1カフカ小品集』、投げ込みで続巻予告。瀬木慎  
一訳『モンドリアンの芸術論』、安部公房『事業』、関根弘『砂  
漠の木』など5冊と『世紀画集』、最後に桂川寛『絵画とは何  
か』とあるが未刊(『桂』)。

9月30日(土) 〈世紀の会〉研究会・瀧口修造「絵画の機能性」(会場は通例法  
政大学 50 番哲学教室)(『世 2.1』投げ込み(日時・題未定の予  
定)、『世 2.2』。市ヶ谷・法政大学で「絵画の機能性について」  
(『読売新聞』9月27日、『美』))

10月18日(水)講演と討論・安部公房「現代と狂気」、桂川寛「ピカソについ  
て」(夜、雪印 K.K 職組文化部のまねきに応じて)(『世 2.2』)。

10月22日(日) (発)『世紀ニュース2』、「ぼくらの画集(季刊・別冊世紀群)

がいよいよ11月中に第1号を発刊することになった」として、今年中に第2号も出す予定というアナウンス。「また画集の発表と成功して種々な画論を研究資料として編さんしてゆく。とりあえずモンドリアン「現代アメリカの抽象絵画」の反譯と桂川寛の「絵画とは何か」が準備されている。」「前衛美術との協力が更に具体化し、双方より出た委員により統一委員会を構成して運動のそく進をはかることになった。マリオネット専門家若松氏との間に協力の話し合いあり。」「世紀群近刊予告、10月、鈴木秀太郎『小説紙片』、安部公房『魔法のチョーク』、11月、会員中の画家たちによる『画集』、関根弘『詩 砂漠の木』、ファデエフ『評論 文芸評論の課題について』、12月、ストリンドベルグ・モンドリアン等。』『カフカ小品集』正誤表あり。地方支部設置について、『関西文学』と『でりぶらんす』から要望の声ありという記事。理事を運営委員と改称し、運営委員住所録には安部公房、樗澤慎一、藤池雅子、桂川寛、大野斉治、関根弘、鈴木秀太郎（元・城崎誠）、勅使河原宏の名。

10月22日～12月27日（発）『世紀群』2～6（『世2.2』、『世2.3』）。

10月28日（土）〈世紀の会〉カフカ研究会（土曜日一時半、目白文化協会、下落合の桔梗屋にて）（『ア』37）。安部公房責任報告「カフカ研究（世紀群1「カフカ小品集」中心に）。次回予定講師は石川淳（『世2.2』）。『世2.3』『評』では22日、「カフカと現代」の報告としている。

10月28日（土）安部公房「紙片のこと」攔筆（『紙片』投げ込み）。

10月30日（月）〈世紀の会〉ムーラン・ルージュでの芸能文化会のマリオネット公演の舞台稽古参観予定（九時半集合）（『世2.2』）。

11月3日（金）『世紀画集』画稿締切（『世2.2』）。

11月4日（土）〈世紀の会〉技術研究会。具体的な創作方法について打合せ、運営委員による作品の審査（『世2.2』（予定））。

11月5日（日）（発）勅使河原蒼風「花と絵と」（『朝日新聞』、『美』）。

11月15日（水）上京中の島尾敏雄が〈世紀の会〉事務所を訪問（『世2.3』）。

11月18日（土）作品批評会・鈴木秀太郎「紙片」（『世2.3』）。

12月（発）勅使河原宏、鈴木秀太郎、大野斉治、桂川寛、安部公房『世紀画集1』。

12月23日（土）〈世紀の会〉総会、九段・家政学院で開催。講師は安部公房。会費20円（『読売新聞夕刊』12月22日、『美』）。

12月27日(水) (発)『世紀ニュース No. 3』、『世紀群』は現在第六号を発刊し又待望の画集が今日完成せるに至った。(中略)以下七号以後□(の)近刊を紹介すると…… No.7 ファーデエフ《文芸評論の課題》 No.8 島尾敏雄 短篇小説 no.9 安部公房 実存主義と共産主義 no.10 ストリンデルベルク 童話集 ピカソとの対話……等。既報「関西文学」が此度世紀関西支部として発足し、その機関誌も「世紀派」と改称した。今後は一層相互の密接な協力が期待される。尚「世紀派」八号に関根弘が詩をおくった。世紀群及び画集・展覧会等世紀の運営する諸機構に関し、運営委員による審査機関を設けることに決定した。絵画関係では画集を中心としたメチエ<sup>(ママ)</sup>の研究と併行して来年度1月より近代前衛作家を対照として一貫した作家論の研究を行う予定である。月一回、各人が任意のテーマによつて研究と資料の発表を行う。」

12月27日以降 (発)『世紀群7文芸評論の課題について』(『世2.3』)。

## 1951年

- 2月1日(木) (発)安部公房「壁」、『近代文学』に掲載(挿絵なし)。  
5月1日(火) (発)安部公房「バベルの塔の狸」、『人間』に掲載(桂川寛の挿絵)。  
5月13日(日) 〈世紀の会〉解散。安部公房は勅使河原宏、池田龍雄、桂川寛らと「人民芸術集団」を設立(『評』)。  
5月28日(月) (発)月曜書房より『壁』刊行。石川淳序文、勅使河原宏装幀、桂川寛装画。

## 〈世紀の会〉刊行物一覧(判明分)

- 49年3月25日 『世紀ニュース No. 1』&投げ込み(練馬区立美術館「池田龍雄・中村宏」展関連資料)  
49年4月9日 『世紀ニュース 号外』(未見。『草』による)  
49年5月1日 『世紀ニュース No. 3』(練馬区立美術館「池田龍雄・中村宏」展関連資料)  
49年6月1日 『世紀ニュース No. 4』(未見。『草』、『全2』による)  
49年7月10日 『世紀ニュース No. 5』(練馬区立美術館「池田龍雄・中村宏」展関連資料)

- 49 年 11 月 25 日 『あるてみす』月曜書房（日本近代文学館・神奈川近代文学館蔵）
- 50 年 6 月 1 日 『BEK 1 藝術の運命 特輯號』（日本近代文学館・神奈川近代文学館蔵）
- 50 年 8 月 『世紀 news 1』& 投げ込み（草月会資料室・神奈川近代文学館蔵。『全 2』では VIII 号としているが、現物を見る限り 1 号と見た方が自然）
- 50 年 9 月 29 日 『世紀群 1 カフカ小品集』& 投げ込み（前者は草月会資料室蔵、後者は『桂』による）
- 50 年 10 月 22 日 『世紀ニュース 2』（日本近代文学館蔵）
- 50 年 10 月 22 日以降『世紀群 2 紙片』& 投げ込み（草月会資料室蔵）
- 50 年 10 月（推定）『世紀群 3 アメリカの抽象芸術』& 投げ込み（前者は日本近代文学館蔵、後者は桂川寛氏蔵）
- 50 年 10 月（推定）『世紀群 4 魔法のチョーク』（草月会資料室蔵）
- 50 年 11 月（推定）『世紀群 5 事業』（草月会資料室蔵）
- 50 年 11 月（推定）『世紀群 6 詩集 沙漠の木』（草月会資料室蔵）
- 50 年 12 月 『世紀画集 1』（桂川寛氏蔵）
- 50 年 12 月 27 日 『世紀ニュース No. 3』（日本近代文学館蔵）
- 50 年 12 月 27 日以降『世紀群 7 文芸評論の課題について』（草月会資料室蔵）

（附記）

桂川寛氏、練馬区立美術館主任学芸員の横山勝彦氏、草月会資料室はじめ、資料閲覧の便宜をいただいた方々に厚く御礼申し上げる。なお、本稿は科学研究補助金（若手研究（B））課題番号 15720037 による成果の一部である。